

## 緑のまちあれこれ

○ 北国分3丁目の‘いなりざく公園’の前を通り、2丁目の旧三浦医院方面に通じる道は、北国分と矢切を結ぶ主要な生活道路です。しかし外環工事に伴い、この道路の一部がプラスチックの遮蔽板で囲われ、道幅が狭い上に、直線だった道がカーブになり、歩道らしい歩道也没有。歩行者も自転車も車も、狭くて不便な空間を譲り合っただけでなんとか通っていましたが、最近多少は改善がみられたようです。地域住民が不安なく通れる生活道路を確保することは、なによりも優先されなくてはなりません。

○ この道の先にかつて墓地があった場所の道端に張り紙の告知が出ていました。1丁目248番地先から、3柱の遺骨が出たので心当たりの人は福祉事務局援護募金担当 (tel 234-1176) まで連絡するようにとのこと。外環工事は、無縁仏まで迷わせているようです。

○ 車よりもバスや電車を使うことが多い私には、市川へ出る方法は北国分駅前のバスが多い。が、なにしろ本数が少ないので不便である。時間がないときは、中矢切のバス停を利用するときもあり、久しぶりにバス停まで歩いて行ったとき、道に迷って上矢切のバス停まで行ってしまった。外環工事の為、道が複雑になり、県道へ出る道がなかなか見つからなかったり、遠回りになっていたり、バス停も移動していたのである。年末年始、外環工事はお休みで、ダンプカーやトラックなどの音もなく、北国分の町は静かな町に戻っていた。このまま静かで空気のきれいな町がいつまでも続くようにと願いたい。

○ 道免き谷津の文化財調査が完了している堀之内木工さん付近で、外環の工事が始まります。地下を15mまで掘削し、長さ35m、高さ11m、幅32mのコンクリート構造物を埋め込むものです。1月から5月まで地盤改良工事をし、6月から12月まで掘削工事、来年1月から3月までコンクリート工事の予定だといいます。たかだか35mもの函梁工事(要はコンクリートの箱の埋め込みです)に、こんな大工事がなんで必要なのでしょうか。このあたりの堀之内南遺跡は、全国文化財保全協議会で保存を決議している地域です。



■編集後記■ 今年の新年号も、竹内庸悦さんの絵で飾ることができました。小塚山トンネル工事・北総との交差工事等々、外環はまだまだなにかと問題点に事欠きませんが、公害調停については、これからの進展になんらかの可能性も出てきているような気配です。そして3月26日には県知事選挙があります。注目したいものです。

# 緑のまち

—北国分だより—

第88号 2009.1.20 発行



編集 北国分外環対策協議会  
市川市北国分 2-29-12 越田方  
Tel 047-372-8936  
www.midorinomachi.net

## 賀 春

2009年



09 新年の小塚山  
- (10) meigen

市川は文化  
都市です。の？  
すの！

## 公害調停について

これからの進展に可能性が

11月26日の第8回調停協議で、調停委員の見解に一定の前進の可能性が示されました。埼玉外環などこれまでの外環の現状や、市川市が計画受け入れ条件とした外環事業による環境被害の影響予測を国が過少に評価しているという私たちの主張に対して、調停委員会は、国が「道路をつくっても環境は守られ、被害は出ない」と主張するなら、その根拠となる資料を提出するようにと指摘し、また、小塚山トンネル工事についても、周辺住民が受けている被害については具体的に認められるので、国は騒音レベルを下げるような工事方法を検討するよう要望しています。

この指摘に対して国土交通省は、環境影響評価法は、外環道路の環境影響評価実施以後に定められた法律で、外環には適用しなくてもよいという立場をとっています。現在の環境影響評価は環境省が環境影響評価法に定めたガイドラインに従って行われているもので、国が定めている現在の法律を国の行政官庁（国土交通省）が遵守していないことは、非常に大きな問題です。現在行われている外環工事に、現在の環境基準が適用されなければ、違法ということになるのではないのでしょうか。

さらに国土交通省は、自動車交通予測について、昨年11月、2020年、2030年の見通しを2002年の予測から13%下方修正すると発表しました。また道路事業の費用効果計算方法を見直すことで便益が一、二割減る事業が多くなることを認めています。

アメリカではGM・フォードなど自動車産業への公共資金投入法案が否決されましたし、日本でもトヨタ・ニッサンなどの自動車企業のリストラが激しくなり、非正規雇用労働者ばかりでなく、いまや正社員にまで及んでいます。エネルギー問題を含めて、もはや車の時代ではなくなってきているのです。物流の根幹は高速道路ではなく、鉄道や港湾、空港事業に当てるべきではないのでしょうか。交通システムの抜本的な再検討が望まれます。

### 第9回公害調停

1月29日（木） 千葉市で開かれます。

なお第8回公害調停は、昨年11月26日、千葉市で開かれ、住民18名が参加しました。

## 北国分の道 市川の道（4）

西畑 健一

曾谷貝塚の隣に向台貝塚がある。曾谷貝塚よりも少し前の時期の大貝塚で、「市川市史」編纂の事前調査のため市川市教育委員会の手で発掘された時、縄文人に踏み固められた、今から4500年も昔の道が発見された。当時もちろん住居跡から住居跡の間に、あるいは住居と水汲み場や船着場の間に道があったが、これまでの遺跡調査では発見された例がほとんどなかった。つまり、当時の道がどうだったのかという問題意識がまだ薄く、考古学的に調査された遺跡として発掘されていなかったからで、縄文時代の道の発掘は画期的なものだった。化研前や和洋女子大構内の官道（律令時代の古東海道）跡も、同じような問題意識で発掘された道路遺跡として位置づけられる。

\*

奈良時代、山部赤人や高橋虫麻呂が市川の北国分を通っていた。赤人は常陸国に在任していた虫麻呂に会いに下総国府（市川）から常陸国府（石岡）へと向かった時、化研前の当時の官道を通っていたことになる。

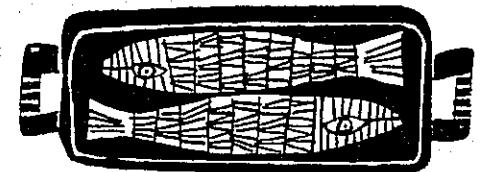
源頼朝は千葉から下総国府に入ったことが「吾妻鏡」に記されているから、頼朝が現在の国道14号（千葉街道）を軍勢を率いて通ったことは間違いない。そしてこの千葉街道では慶応4年（1868）4月、市川と船橋で幕府軍残党と新政府軍とのいくさ、市川船橋戦争があった。

道はいつの時代でもいろいろな人が通過し、ものが運ばれ、街道沿いに商家が栄え、文化が移動し伝わった。市川という地名は、川（江戸川）のほとりに市が立った場所を示し、都の文物が東京湾から陸揚げされ、北関東へと船で運ばれる物資集散地として栄えたことを示している。

（つづく）

国民一人に1万2000円（子供と高齢者は2万円）を配るといふ定額給付金について与党と野党とで争い、与党の中でも意見が分裂しかけている。税金を2兆円も使って、選挙対策にもならないこんな無駄使いを思いついた政党も政党だが、国民の7割もが無意味だと評価している政策に固執している総理大臣にも困ったものだ。

k



## 探鳥会

日時：平成20年12月7日（日）

天候：晴れ

参加者：飯山 石井 今井 小沢 川上 川上 菊地 越田 佐々木

鈴木 蜂須賀 藤井 藤岡 三好 村岡 吉田 吉田 17人

確認された鳥：

カワウ マガモ カルガモ トモエガモ ヒドリガモ  
オナガカモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ  
ユリカモメ キジバト コゲラ ヒヨドリ ツグミ  
ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ  
ヤワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス  
計23種

コメント：当日は天気に恵まれ、さっそくに小塚山では、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、コゲラの混群、それにカワラヒワまで加わり大にぎわいでした。じゅんさい池では、トモエガモのメスが一羽ですがいて、皆その珍客を見て楽しみました。

次回 平成21年2月15日（日）

小塚山あずまや 10時集合（雨天中止）

案内人 村岡幸生さん（日本野鳥の会会員）

## バードウォッチングに参加して

石居 隆行

北国分周辺の樹木もすっかり葉が落ち、絶好のバードウォッチングの季節となりました。普段何気なく見ている鳥も、スコープを通して覗けば、その美しい色鮮やかで愛らしい姿に感動を覚えます。村岡さんのご指導のもと、昨年より継続的に参加することで、私も多くの鳥に出会うことができるようになりました。例えば、エナガが来たら、キクイタダキを意識する。シジュウカラ、メジロに対してヤマガラは、など。

轉りや気配、動きの連続は、視覚・聴覚の五感を研ぎ澄まします。木漏れ日に集う野鳥の群れ、図鑑で見た鳥が、目の前に見られる感動、お子様の情操教育にも最適。DSばかりやっていないで、森へ行こう。かわいい美しい鳥さんがみんなを待っているよ。せっかく北国分に住んでいるのだから。

## 冬の花 サザンカ

谷口 浩之

♪さざんか さざんか さいたころ たきびだ  
たきびだ おちばたき……

冷たい風が吹き、モノトーンに沈んだ冬枯れの中ひととき目を引く花があります。サザンカです。正月のロウバイまでこれと言って花らしい花がないなか、生垣に赤や薄紅、まれに白い花をつけています。

余談ですが、年配の方なら誰もが口ずさんだ童謡「たきび」の作者巽聖歌（たつみせい）は、東京都中野区上高田に住み、散歩時にその辺りの情景を気に入り、歌にしたと言われています。私は武蔵野の面影を残す上高田で生まれ、「かきねの かきねの まがりかど……」を行き来しました。もちろん「たきび」の発祥地など知らず、もったいないことをしたものです。

北国分周辺は古い町並みで、散歩で歩いていると、まだあちこちにサザンカの生垣を見ることができます。似ているものに、季節的に遅く咲く椿（共にツバキ科）があります。サザンカは花びらが一枚一枚散りますが、椿は雄しべと花びらがついているので、一輪のままポトリと落ちます。それで椿は病気見舞いには持って行ってはいけなると聞かされました。前者は葉の上側に咲きますが、椿は葉の下側に花を咲かせます。ルーペで見ると葉の付け根に毛がうっすらと生えているのがサザンカです。

情緒ある生垣を“緑のまち”に残したいものです。

《以前「夏の花 からすうり」を書きましたが、温暖化のせいでしょうか、10月15日まで咲いていたので、市川市自然博物館にお知らせしました》



## [ひとくちメモ]

五常村 今の北国分はかつて五常村となっていた時があった。

五常村は、たった一年だけの、明治22年から23年までの村で、国分・曾谷・須和田・稲越・下貝塚の5か村を合併し、村役場を国分に置いた。明治23年に国分村となる。昭和9年、国分村は市川町・八幡町・中山町と合併して市川市となった。ちなみに、北国分が国分から分離したのは昭和26年のことである。

## 歌の玉手箱

稲見由美

菅野の路地を歩くと、申し訳なさそうに板塀からはみ出した黒松が古いまちの佇まいを辛うじて残しています。少し傾きながら天へと向かう梢は、遠くなった潮騒を今も静かに聴いているかのようです。そう言えば幼い頃「天狗があの松の枝から悪い子をみていますよ」と叱られては天狗山にバサリバサリと連れて行かれては一大事、と必死に謝ったものですが、松の木は笑いをこらえていたに違いありません。

変わりゆくもの、かわらぬもの。街の姿をじっと見守ってきた老木に、言葉があるのなら……明治の詩人たちもそんな思いで古い幹に手を当てて語りかけたのでしょうか。「老松」は祖母の愛唱歌でした。

♪ 春はみどりの においめでたく  
夏は木かげに あつさ忘らる  
雪のあしたも 月の夕べも  
ながめゆかしき 庭の老松

「老松」 作詞者不詳

## 「こうのだい九条の会」秋の文化展

松林マサ子

ここ数年、憲法9条を変えよう、なくそうという動きが強くなり、不安に思っていました。名古屋高裁判決で、平和がなければ憲法で規定しているすべての人権は絵に描いた餅と同じ、9条はすべての人権の根拠であるとされました。

国府台・中国分・北国分・堀之内の地域で、9条を守りたい、「もう戦争はイヤ！」を合言葉に、多くの方から賛同が得られ、2008年5月に、「こうのだい九条の会」が結成されました。私も賛同者の一人です。

秋の文化展は、11月29日～12月7日まで、国府台のSPACE園で開催し、延べ273名の地域の方に鑑賞していただきました。作品が集まるか、大変不安でしたが、賛同者等のご協力により、57名、100点で、会場いっぱいに表示することができました。「素晴らしい作品ですね」「みんなの手作りって感じで良いわ」「会場が綺麗」などの感想をいただきました。来訪者の方は、お知り合いの方の作品の前で、出展者や友人と懇談、意外なつながりも発見、古い友人との再会など素敵な出会いの連続でした。

再び残虐な戦争が起こらないよう、憲法9条を守るための話し合いを広げて、この地域で大きく結び合いたいと願っています。

## 新春詠

井澤 禎子

お元日 金髪の子が鈴鳴らす  
御降（おさが）りや 檉 明日への 力溜め

山本 愛子

注連（しめ）飾る あすある事を信じつつ  
突堤に人影二つ 初景色

三好 ひろし

追羽根や 少子化嘆く手古奈さま  
三番瀬 百鳥（ももとり） つどい 年新た



## 通り道

岡田 優子

晴れていた空 急に暗転 戸惑う私に

「このあたり 雲の通り道ですよ」

車をはしらせていると 良く判ります」

宅急便の青年が教えてくれる

そういえば 霰に雷 狐の嫁入り

くるくる変る天候は

職場でも話題になるという

「でも変化があつて 面白いでしょう」

そう言い添えて帰って行った

今日も変化になりそう

江戸川に程近い 起伏の多い台地

その端に位置する町のはるか上空

照る日 曇る日 振り分けながら

見たところ平凡に行進している雲の動き

でもどうやらその足並みが怪しい

私の明け暮れを賑わわす

きつと今日も霰に雷

そして